

# School Library 9月号

令和5年9月22日発行 担当：図書委員会3年生

夏休みが明け9月に入りました。9月になり少しずつ涼しくなってくると思いきやまだまだ30℃超えの暑い日ばかりで、溶けそうになる人も多いのではないのでしょうか？ そんな時は是非涼しい図書館に来て本を手にとってみてください！

(担当：3-B)

## 図書委員のオススメ本

<テーマ 食秋の秋>

『落語百選 秋』より“目黒のサンマ” 麻生芳伸編 B913 4 3

僕が今回紹介する本は「目黒のさんま」です。「目黒さんま」は古典落語のひとつで、秋の大定番とも呼べる有名な作品です。

ある時冷えた飯にうんざりしたお殿様が下町に出てさんまの塩焼きを食べるところから話は始まります。低級な下魚として扱われていたさんまを、庶民的な流儀で無造作に調理すると美味だが、丁寧に調理すると不味い、という滑稽な話です。古典落語なので、絶対的に面白くどんな人でも読みやすいと思います。

是非読んでみてください。

(担当：3-A)



## 『早稲田大学競走部のおいしい寮めし』

福本 健一 栄養指導・料理レシピ、磯 繁雄 監修、早稲田大学競走部協力 596 枚

この本は、題名の通り、寮生活の中で栄養士が寮に住む人たちのことを考えて作っているご飯を見ることが出来る本です。しかし、ただ考えているだけでなく「くじけない心と身体をつくる」

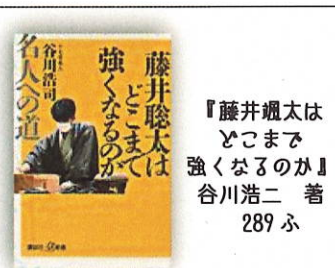
を目指して栄養を体だけでなく心の栄養も養ってくれていることも理解できます。

そして、この本には、そんな心のこもったご飯のレシピも載っているので、是非みなさんも読んでみてください！

(担当：3-B)



## 図書館から新着本の紹介



『藤井聡太はどこまで強くなるのか』 谷川浩二 著 289 頁

最年少名人記録は破られるのか。それとも、彼に勝つ棋士が現れるのか。棋界における名人位の意味、過酷さを増す戦い、そのすべてを知るレジェンドが、さらに進化する藤井将棋に迫る。

『一晩置いたカレーはなぜおいしい？ 子どもたちはどうしてピーマンが嫌いなのか？ ワサビがツーンとする理由は？ 味、食感、香り、栄養素など食材に関する謎を、食材が生きていたときの姿から解き明かします。』

『一晩置いたカレーはなぜおいしい？』 稲垣栄洋 著 498 頁



『税金で買った本』 ずいの 原作 系山岡 漫画 M726 枚

小学生ぶりに図書館を訪れたヤンキー石平くん。10年前に借りた本を失くしていたことをきっかけに、あれよあれよとアルバイトすることに！ 借りた本を破ってしまった時は... \*館内で読んでください。



『世界は「」で満ちている』にはじまる櫻いよの3部作がそろいました。どれも身近な学校生活を題材に、胸がキュンとなる青春小説です。



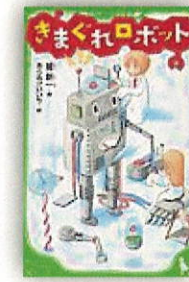
『世界は「」を秘めている』

『世界は「」で沈んでいく』

櫻いよ 著 913 頁



## 私と読書 先生



『きまぐれロボット』 星新一 著 918 頁



『はじめての文学 村上春樹』 村上春樹 著 913 頁



『志賀直哉の短編小説を読み直す』 島村輝 著 <近日入荷予定>

皆さんと同じ中学生のとき、大人びた同級生が静かに本を読んでいたことに影響され、私も読書をするようになりました。最初にはまったのは「星新一」のショートショートです。SF？ミステリー？ユーモア？の小説で、ひとつひとつの物語が短く、また一冊も薄かったので、学校の図書館や近くの図書館で借りて、片端から読みました。

次に引き込まれたのは、「村上春樹」です。「風の歌を聴け」や「羊をめぐる冒険」などたくさんの有名な作品があります。不思議な世界観と独特の文章表現に魅了され、大人になってから何度も読み返していますし、読んだものはすべて手元に保管しています。最新刊の「街とその不確かな壁」も一度読みましたが、またじっくり読み返したいと思っています。

その他、新刊が出たらチェックするようにしているのは、伊坂幸太郎や万城目学、三浦しをん、原田マハなどの作家の本です。ぜひ図書館で探してみてください。

今回、3年生の修学旅行では、「志賀直哉旧居」を訪れる機会がありました。昭和初期に志賀直哉自身が設計したもので、非常に進歩的で合理的、美的な工夫が随所に凝らされているものでした。改めて、文豪の作品にもふれてみようと思いました。

本は、自分に新しい世界を見せてくれるもので、本を読んでいる時間は、自由に想像(妄想?)を膨らませてよい自分だけのものだと思います。同じ本でも、読んだ歳によって印象が変わるものがありますね。ぜひ皆さんの本にふれ、読書を楽しんでください。(担当：3A)

## 私と読書 先生

小学生の頃は、「伝記」が大好きでよく読んでいました。中学生になると、夏休みの宿題である読書感想文のために課題図書を読む程度となり、積極的に本に親しむことが少なくなりました。

教員になり最初に赴任した中学校で、朝学活前の10分間、「朝読書」という時間がありました。年間を通して各自好きな本を読むというもので、私たち教員も同じ時間を過ごしました。毎日短時間ですが読む習慣ができ、再び本の楽しさに触れることができました。それからいろいろなジャンルの本を読むようになりました。一時期、東野圭吾さんの本を読み続けていたときがあります。元エンジニアの経歴もあるためか、理系の知識を生かした理系ミステリー作品で、先の見えない展開やどんでん返しの結末で、サクサクと読みやすかったからかもしれません。また、大谷翔平選手や長谷部誠選手など、スポーツ選手の本もよく読んでいます。

さて、今回みなさんに紹介する本は、フレイティみかこさん著の「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」です。この本は本著のフレイティみかこさんと中学校に通う息子さんが様々な問題に向き合い、ともに乗り越えていくという実体験を元にしたノンフィクション作品です。人種差別や貧困、ジェンダーなど、最近よく話題になっている多様性の部分がたくさん詰まった内容です。時間があったら読んでみてください。(担当：3A)



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 フレイティみかこ 著 376 頁



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2』 フレイティみかこ 著 376 頁